

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 23-017

PDCA	事務事業名	水路環境美化事業(防草対策)	部課等名	建設部土木課	建設担当	担当 内線等	鶴飼 437	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第4章 安全で快適に住み続けられるまち						
		節： 第2節 都市基盤の整備						
		基本施策： 5. 治水・排水対策						
		単位施策： (1) 河川・ため池の能力強化						
根拠法令等	個別施策： ①河川・水路改修の推進							
対象・目的	水路における快適な住環境の創出と浸水被害等の災害防止							
目的を達成するための手段・活動内容	水路敷きに雑草が繁茂する生活環境の悪化や、雨天時に水路スクリーン等の詰まりを未然に防ぐ方策として、水路の路肩部分に防草シートやコンクリート等を張ることにより、雑草の繁茂を防止する。							
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	29年度	30年度	元年度	単位		
		①防草対策箇所数			6	箇所		
		事業費			12,263	千円		
		人件費			1,990	千円		
		総事業費			14,253	千円		
		活動単位当たりのコスト	29年度	30年度	元年度	単位		
	①防草対策1箇所当たりコスト			2,376	千円			
	成果	成果指標	29年度	30年度	元年度	単位		
		①防草対策率(累計)	実績値			28.6	%	
			目標値			31.7		
		実績値						
		目標値						
		実績値						
	目標値							
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性			
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減余地 ある				
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある	※手段の変更				
	③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない	⑧受益者負担適正化余地	—				
	事業の評価・課題	C 市内一円の市管理水路6箇所の防草対策を実施し、快適な住環境の創出と排水機能の確保を図ることができた。防草対策後に、草の繁茂が再発しないよう対策箇所の経過観察及び端部箇所等のメンテナンスを行い、防草効果を継続させる必要がある。						
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進						
		住民要望等により、新たに除草箇所が確認された場合は、緊急性や必要性を踏まえ防草対策の可否を判断して、計画的に実施する。						
	令和2年度の目標	成果指標	目標値	単位				
		①防草対策率(累計)	49.4	%				